

県立太田第一高等学校自己評価表 [定時制課程]

目指す学校像		自主的精神に満ちた、心身ともに健康で、社会や国家に貢献し得る有為な人材の育成に努める。					
昨年度の成果と課題		重点項目		重点目標		達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> 学習指導・進路指導・生徒指導それぞれ計画どおり実施することができた。さらにきめ細かな指導を図る。 生徒一人一人の個人差に配慮し、生徒の基礎学力・社会性を高めることができた。さらに学力やコミュニケーション能力を高める工夫をする。 授業や学校行事の欠席を減らすため、本人との面談や家庭への働きかけを続けることで、特別な理由なく欠席する生徒が減少した。継続して生徒の主體的な授業及び行事への参加を促進する。 	(1)	心の教育の充実・豊かな人間性の涵養	自他の生命を尊重し、他人を思いやる心を育て、豊かな人間性を培う。		B		
	(2)	基礎・基本の重視、必要に応じた個別の指導計画の策定	きめ細かな学習指導を通して、基礎的・基本的な学力の向上に努める。		B		
	(3)	積極的な生徒理解、基本的生活習慣の確立	家庭との連携を密にして、基本的生活習慣の確立に努める。		B		
	(4)	情報の共有と臨機応変な判断、充実した学校生活への環境整備	危機管理を徹底し、校内外での事故防止と健康・安全で安心な学校づくりに努める。		A		
	(5)	学校行事への積極的参加	生徒会活動・部活動の活性化に努め、他者と協力して社会を生きる力を培う。		B		
	(6)	職業に関する多様な知識や情報の提供	勤労観・職業観を育成し、就業指導の充実に努める。		B		
	(7)	働き方改革への積極的な取組	業務の見直しを行い、在校等時間の縮減および生徒と向き合う時間の確保に努める。		B		
評価項目	具体的目標		具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	国語	国語への興味・関心を喚起し、基礎力の向上を図り、コミュニケーション能力を高め、日常生活に生かせるようにする。	(1)	漢字の読み方・書き取りの反復練習と語句の意味調べにより、日常生活での活用を促す。	A	B	スマートフォンが生活に欠かせなくなりつつある中、本を読む習慣が軽視されがちである。スマートフォン以外においても文字に触れる機会をもたせるよう努めたい。
			(2)	作文指導を通して、日々の生活の中に自己を見つめるきっかけを作り、表現の知識・方法を学ぶ。	B		
			(3)	考え表現する活動を通して、コミュニケーション能力を高める。	C		
	地歴公民	地歴公民への興味・関心を高めるとともに、人生をより豊かにするような実生活でも活用できる知識や考え方を身につける。	(1)	授業内容と日常生活とを関連させることで、生徒の興味・関心を高める。	B	B	写真や地図、グラフの画像を厳選するとともに、動画の活用を増やす。
			(2)	人生をより豊かにするような日常生活でも活用できる知識・考え方を身につける授業を展開する。	B		
			(3)	写真や地図、グラフ等を活用し、学習内容をより理解できるようにする。	A		
	数学	基本事項の理解を図る。数学への興味・関心が高まる授業に努める。生徒の実態に即した教材を選択実践する。	(1)	定義・定理などを平易な表現で提示する。	B	B	ひとりでも多くの生徒が、例題の解法をまねて、一部でもよいから、自力で解けるようにしていく。
			(2)	基本問題をたくさん解くことによって、解ける喜びを体験させる。	A		
			(3)	理解の程度に応じていろいろな作業を取り入れていく。	B		
	理科	自然界の事象に関する興味・関心を高め、身の回りの現象や事物について科学的に理解できるようにする。	(1)	身の回りの現象や事物を多く授業に取り入れ、生徒の興味・関心を高める。	B	B	動画の活用、動画コンテンツの準備を進める。
			(2)	図、写真、動画などを用い、理解を深められるようにする。	B		
			(3)	実験、実習を多く取り入れ、生徒が主體的になれるよう工夫する。	A		
	保健体育	保健の知識を身につけ、生活習慣に生かせるようにする。運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。	(1)	保健の授業では、できる限り身近な話題を取り上げることで、生活に結びつけられるようにする。	B	B	各自が運動技能を高めるための工夫をして、一つ一つのプレーのレベルが高まることに喜びを感じさせる。
			(2)	体育の授業では、運動技能を高めることにより、より競技が楽しくなることを体験させ、運動の喜びを実感させる。	A		
			(3)	集団的活動を通じてコミュニケーション能力を育成する。	B		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
芸術	表現力の向上を図る。 鑑賞の基礎的能力を伸ばす。 創造の喜びを実感する授業への 取り組みに努める。	(1) 個別指導を丹念に行い、表現力の基礎を向上させる。	A	A	生徒は立体造形を好むようであることから、次年度は立体で造らせた。
		(2) お互いの作品を鑑賞し、それぞれの作品の良さを感じ取らせる。	B		
		(3) 生徒が興味を持つような題材を設定して意欲を持って制作活動ができるようにする。作品は必ず完成させ、制作の達成感を味わわせる。	A		
教科 外国語	英語を聞き、話し、読み、書く基礎的な能力を養うとともに、英語を理解し、英語で表現しようとする態度を育てる。	(1) 板書を工夫し、自力で英文の内容を読みとろうとする積極的な態度を育てる。	B	B	授業での ICT(BYOD)活用を進める。また、生徒のモチベーションを上げる授業づくりに努める。
		(2) 読解に必要な文法事項を本文に即して学習し理解させる。	B		
		(3) 基本的な会話表現を実際に声に出して練習し、日常生活の中で使えるようにする。	B		
家庭	基礎的な知識と技術の定着を図る。生活の課題を見出し、改善しようとする態度を育てる。	(1) 個に応じた指導に力を入れ、生活に必要な知識や技術の習得を目指す。	B	B	実験・実習などの体験的な学習をより多く取り入れ、実生活に役立つ技術の習得を目指す。
		(2) ワークシートを利用し、分かりやすい授業の実践に努める。	B		
		(3) 新聞記事を使い、身近な生活の中に課題を見つけ、改善方法を考えさせる。	B		
情報	情報及び情報技術を活用するための知識と技術を習得させるとともに、社会の中での役割や影響を理解させる。	(1) ローマ字入力を身に付けさせ、文書作成や表計算ができるようにする。	B	B	例題をまねてワープロ、表計算ソフトが使えるようにする。
		(2) 目的のサイトを検索できるようにする。	B		
		(3) 簡単な著作権侵害の具体例を知らせ、情報化社会に参加する上でのモラルについて考えさせる。	B		
特別活動	生き生きとした高校生活の確立を図る。	(1) 学校行事・部活動・定通大会等への生徒の積極的参加を図る。 (2) SHR や LHR や給食の時間を通して、生徒が自主的に考え行動する力の育成を図る。 (3) 「キャリア・パスポート」を活用し、生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題について考えることができるようにする。	C B B	B	ほとんどすべての行事が中止となった。来年度は、各行事が出来ることを望む。
生徒指導	1 基本的な生活習慣の確立を図る。	(1) 全職員の共通理解のもと、基本的な生活習慣の確立に努める。	B	B	大きな生徒指導案件は発生していないが、生徒一人一人問題を抱えている。ホームルーム担任を含めた、情報の共有・対応を怠らずやっていきたい。
		(2) 毎日登校時に全職員で立哨指導を行い、挨拶やマナーアップの個別指導を行う。	B		
	2 学校生活・社会生活における規律を守らせる。	(1) 自転車・バイク・車の鍵の管理を徹底させ、整備点検を実施させる。	C		
		(2) 交通講話・交通安全関連ビデオ上映を行い交通安全指導を実施する。	A		
		(3) 薬物に関する講話や研修会など薬物乱用防止指導を実施する。	A		
	3 積極的な生徒理解に努める。	(1) 遅刻・欠席・早退などの連絡報告を徹底し、家庭との連携を密にする。	A		
(2) 生徒指導に係る被害状況調査を定期的に行い、必要に応じて現状を通知する。		B			
(3) 定期的に巡視を行い、生徒理解に努める。		B			
進路指導	将来の夢の実現を支援する。	(1) 定時制として未就労生徒のハローワーク登録をすすめる。	B	B	生徒に応じた進路指導を継続するとともに、個々の生徒の進路意識を高めたい。
		(2) 職場見学や総合的な学習を通して、生徒および保護者の進路意識の啓発に努める。	B		
		(3) 自己を見つめ直す時間(生徒全員による校内生活体験発表会等)を設け、望ましい勤労観・職業観の育成を図る。	B		
		(4) 進学希望者に個別学習相談と適切な情報提供を行う。	B		
保健厚生	生徒の心身の健康の増進を図る。	(1) 学習環境の整備(日常安全点検を行い、事故防止に努める。)	B	B	基本的な生活習慣を確立させるとともに、健全な心が育つよう支援する。
		(2) 個別に健康相談を行うなど、健康状況の把握に努める。	B		
		(3) 生徒が健康な体を作っていくために必要な基本的な生活習慣の確立と自己管理能力の育成に努める。	B		
		(4) 教育相談の体制や運営の充実に努める。	B		
		(5) 給食部と連携し、個別の栄養指導及び給食室の環境の整備に努める。	B		

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	1 授業時間の確保と授業や学校行事等の充実に努める。	(1) 事前の打ち合わせを十分に行い、学校行事等の能率的運営を図る。	A	B 支援システムの運用、授業時間の確保、業務内容の一覧作成を進める。
		(2) 週毎に時間割の検討を行い、効率的な授業の実施を図る。	A	
		(3) 生徒の教室移動を速やかに行わせ、落ち着いた雰囲気での授業を実施する。	B	
	2 生徒の個人情報管理を見直す。	(1) コンピュータ内の個人情報のセキュリティ管理を行う。	B	
		(2) 外部からの情報請求には慎重に対応する。	B	
	3 三修三卒を目指す生徒への支援を図る。	(1) 定通併修を希望する者に適切な情報提供と助言を与える。	B	
		(2) 併修生の通信制での学習状況把握と指導を随時行う。	C	
	4 広報活動の充実に努める。	(1) 中学校・地域への広報活動に努める。	B	
(2) 成人特例制度の案内を近隣市町村の広報紙を通じて行う。		A		
第1学年	基本的な生活習慣の確立を図り、基礎的・基本的学力の定着に努める。	(1) 登校指導や授業を通し、基本的な生活習慣と節度ある生活態度を身につけさせる。	B	B 基本的な生活習慣の確立とともに、社会生活への対応が出来る生徒の育成に努める。
		(2) 公共心を養い、校内美化に努める。	B	
		(3) 始業時間を守り、規則正しい生活を心がけ、遅刻・欠席を減らすことを促す。	B	
		(4) 毎授業ごとにノートを確実にとる習慣を身につけさせる。	B	
第2学年	基本的な生活習慣の確立を図るとともに、集団活動を理解し実践する。	(1) 登校指導や授業を通し、基本的な生活習慣と節度ある生活態度を身につけさせる。	B	B 欠席が定常化している生徒への対応、就学意義を再確認し、登校意欲の向上に努める。
		(2) 始業時間を守り、規則正しい生活を心がけ、遅刻・欠席を減らすことを促す。	C	
		(3) 集団生活の中での役割を理解させ、学校生活の充実に努める。	B	
		(4) 基礎学力の向上を図り、社会へ目を向けさせる態度を育成する。	B	
第3学年	積極的に学校づくりに関わる気概を育て、学校行事をとおして共に生きる喜びを実感させる。	(1) 登校指導や授業を通し、基本的な生活習慣と節度ある生活態度を身につけさせる。	B	B 基本的な生活習慣の定着に努めるとともに、学校行事への積極的な参加を促す。また、卒業後のキャリア計画検討を支援する。
		(2) 積極的に学校行事に関わり、リーダーシップを発揮させる。	B	
		(3) 基礎学力の向上を図り、上級学年としての意識を高める。	B	
		(4) 保護者との連携を密にして、生活面、就労意欲に目を向けさせる。	B	
第4学年	自己を見つめ、人生観や職業観についての確立と社会生活への自立を促す。	(1) 登校指導や授業を通し、基本的な生活習慣と節度ある生活態度を身につけさせる。	B	B 学校生活を通して、基本的な生活習慣を身につけさせ、社会生活への自立を促す。
		(2) 時間を守り、礼儀作法を身につけ、社会性を養う。	B	
		(3) 集団の中で自覚と責任のある行動をとる。	B	
		(4) 助け合う心、思いやる気持ち、信頼しあえる人間関係づくりを促す。	A	

※ 評価規準

- A: 大変よくできた (達成度 100~80%)
- B: よくできた (達成度 80~60%)
- C: 普通 (達成度 60~40%)
- D: あまりできなかった (達成度 40~20%)
- E: 全くできなかった (達成度 20~0%)